

受験番号						
------	--	--	--	--	--	--

午前の部

登録販売者試験

(平成25年 9月25日 (水) 実施)

試験問題

医薬品に共通する特性と基本的な知識・・・ 問 1 ～ 問 20
 主な医薬品とその作用・・・・・・・・・・・・ 問21 ～ 問 60

注意事項

- 試験開始のアナウンスがあるまで、問題を開かないこと。
 - 試験監督員のアナウンスにより、問題用紙の表紙に受験番号を記入するとともに、解答用紙に氏名及び受験番号（6桁）を記入すること。
 (注) ①受験番号は、算用数字で記入すること。
 ②解答用紙の「受験番号記入欄」には、受験番号に対応した数字をマークすること。
 - 問題用紙は、表紙を除いて30ページある。試験開始後、乱丁等がないかを確認し、異常があるときは速やかに試験監督員に申し出ること。
 - 各問題について、答えを一つ選び、その番号のカッコの中全体をHBより濃い黒鉛筆で濃くぬりつぶすこと。(下記(例)参照)
- (例)【問150】
 次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。
- | | | | |
|---|---|---|---|
| | a | b | c |
| 1 | 正 | 誤 | 正 |
| 2 | 正 | 誤 | 誤 |
| 3 | 正 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 |
| 5 | 誤 | 誤 | 正 |
- a. $1+1=2$ である。
 b. $5-3=3$ である。
 c. $1\times 2=2$ である。
- aは正、bは誤、cは正であるから、正しい答えは「1」となる。
 よって、問題番号に対応した解答用紙の番号「150」欄の「1」を塗りつぶすこと。
- | |
|-----|
| 150 |
| 1 |
| 2 |
| 3 |
| 4 |
| 5 |

→

150
■
2
3
4
5
- なお、答えを修正した場合は、必ず消しゴムであとが残らないように完全に消すこと。鉛筆のあとが残った場合は、修正または解答したことにならないから注意すること。
- 解答用紙の<注意事項>もよく読んでおくこと。

医薬品に共通する特性と基本的な知識

【問1】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 医薬品の中には、人体に直接使用されないものであっても、人の健康に影響を及ぼすおそれがあるものがある。
- b. 医薬品は、人の生命や健康に密接に関連するものであるため、高い水準で均一な品質が保証されていなければならない。
- c. 医薬品が人体に及ぼす作用は複雑かつ多岐に渡るが、一般用医薬品については、そのすべてが解明されている。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	正	正	誤
4	誤	誤	正
5	誤	正	正

【問2】

医薬品の副作用に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 医薬品の副作用には、眠気や口渇等の比較的良好に見られるものは含まれない。
- b. WHO（世界保健機関）の定義によれば、医薬品の副作用とは「疾病の予防、診断、治療のため、又は身体の機能を正常化するために、人に通常用いられる量で発現する医薬品の有害かつ意図しない反応」とされている。
- c. 薬理作用がない添加物も、アレルギーを引き起こす原因物質となりえる。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	正
3	誤	正	正
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

【問3】

次の a ~ c の () に入る字句の正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

※なお、同じアルファベットの欄には同じ字句が入ります。

(a) は、本来、細菌やウイルスなどが人体に取り込まれたとき、人体を防御するために生じる反応であるが、(a) 機構が過敏に反応して、好ましくない症状が引き起こされることがある。これを (b) という。通常の (a) 反応の場合、人体にとって (c) ための必要な過程であるが、(b) においては過剰に組織に刺激を与える場合も多い。

	a	b	c
1	免疫	アレルゲン	有害なものを体内から排除する
2	代謝	アレルギー	有用なものを体内に取り込む
3	免疫	アレルゲン	有用なものを体内に取り込む
4	免疫	アレルギー	有害なものを体内から排除する
5	代謝	アレルゲン	有用なものを体内に取り込む

【問4】

次の a ~ c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 副作用は、血液や内臓機能への影響等のように、直ちに明確な自覚症状として現れないこともある。
- b. 医薬品の副作用は、薬理作用による副作用とアレルギー（過敏反応）に大別することができる。
- c. 一般に高齢者は生理機能が衰えつつあり、特に、肝臓や腎臓の機能が低下していると医薬品の作用が強く現れやすくなる。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	誤	正
3	正	誤	誤
4	誤	正	正
5	正	正	誤

【問5】

医薬品の相互作用に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 相互作用を回避するには、通常、ある医薬品を使用している期間やその前後を通じて、その医薬品との相互作用を生じるおそれのある医薬品や食品の摂取を控えなければならない。
- b. 酒類（アルコール）は、医薬品の吸収に影響を与えることがあるが、代謝には影響を与えない。
- c. 一般用医薬品は、複数の成分が配合されていることが多いが作用が著しくないので、他の医薬品と併用した場合に、同様な作用を持つ成分が重複しても、作用が強くなることはない。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	正
3	誤	誤	正
4	誤	正	正
5	正	誤	誤

【問6】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 医薬品を服用後、代謝によって産生する物質に薬効があるものはない。
- b. 食品中に医薬品の成分と同じ物質が存在することがあるので、それらの物質を含む医薬品を食品と一緒に服用すると過剰摂取となることがある。
- c. 医薬品の成分の一部が乳汁中に移行することが知られており、母乳を介して乳児が医薬品の成分を摂取することがある。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	正
3	誤	誤	正
4	誤	正	正
5	誤	正	誤

【問7】

医薬品の使用上の注意等における年齢区分に関する次のa～cの（ ）に入る字句の正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

医薬品の使用上の注意等において、乳児、幼児、小児という場合には、おおよその目安として、乳児は（ a ）未満、幼児は（ b ）未満及び小児は（ c ）未満の年齢区分が用いられている。

	a	b	c
1	1歳	5歳	12歳
2	1歳	7歳	15歳
3	1歳	7歳	12歳
4	3歳	7歳	15歳
5	3歳	5歳	12歳

【問8】

次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 一般用医薬品は習慣性・依存性がある成分を含んでいるものがあり、乱用されることもある。
- b. 一般用医薬品は作用が著しくないため、乱用の繰り返しによっても、慢性的な臓器障害等までは生じない。
- c. 登録販売者は、一般用医薬品の大量又は頻回購入者に対し、積極的に事情を尋ねたり、販売を差し控えるなどの対応は信頼を損なうことがあるので避けるべきである。

	a	b	c
1	誤	誤	正
2	誤	正	誤
3	正	誤	正
4	正	誤	誤
5	正	正	正

【問9】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 一般用医薬品を小児に服用させる場合には、成人用の医薬品の量を減らして小児に与えるような安易な使用は避け、必ず年齢に応じた用法用量が定められているものを使用する。
- b. 小児は大人と比べて身体の大きさに対して腸が短く、服用した医薬品の吸収率が低い。
- c. 小児は、大人に比べて循環血液中の医薬品の成分が脳に達しにくいため、中枢神経系に影響を与える医薬品であっても副作用を起こしにくい。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	正	誤	正
3	誤	誤	正
4	誤	正	正
5	正	正	誤

【問10】

高齢者が医薬品を使用する場合の注意事項に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 一般に、生理機能が衰えつつあるので、一般用医薬品を使用する際は、原則として、定められた用量の範囲よりも少ない用量で使用しなければならない。
- b. 医薬品の使用上の注意等において、「高齢者」という場合には、おおよその目安として70歳以上を指している。
- c. 基礎疾患を抱えていることが多く、一般用医薬品の使用によって基礎疾患の症状が悪化することもある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	誤	正	誤
4	正	誤	正
5	誤	誤	正

【問 1 1】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 便秘薬には、配合成分やその用量によっては流産や早産を誘発するおそれがあるものがある。
- b. 妊婦が一般用医薬品を使用しても、胎盤関門によって、その成分が胎児に移行しないことが確認されている。
- c. ビタミンA含有製剤は、妊娠前後の一定期間に通常の用量を超えて摂取すると胎児に先天異常を起こす危険性が高まる。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	正	誤	正
4	誤	正	誤
5	誤	正	正

【問 1 2】

医薬品の品質に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 一般用医薬品は、購入後すぐに使用されるとは限らないため、外箱等に記載されている使用期限から十分な余裕をもって販売等がなされるべきである。
- b. 医薬品の品質が劣化すると、効き目は低下するが、人体に好ましくない作用をもたらす物質が生じることはない。
- c. 医薬品に配合されている成分が光（紫外線）によって品質の劣化を起こすことはない。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	誤
3	正	誤	正
4	正	誤	誤
5	誤	誤	正

【問 1 3】

医薬品を使用したときに生じる「プラセボ効果」に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 結果的又は偶発的に薬理作用によらない作用を生じることをいう。
- b. プラセボ効果によってもたらされる反応や変化には、望ましいもの（効果）だけでなく、不都合なもの（副作用）はない。
- c. プラセボ効果は、主観的な変化だけでなく、客観的に測定可能な変化として現れることもあるが、不確実であり、それを目的として医薬品が使用されるべきではない。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	誤
3	正	誤	正
4	正	正	誤
5	誤	誤	正

【問 1 4】

一般用医薬品の役割に関する次の 1～5 の記述について、誤っているものを一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- 1. 殺菌消毒
- 2. 健康状態の自己検査
- 3. 軽度な疾病に伴う症状の改善
- 4. 妊娠の確定診断
- 5. 健康の維持・増進

【問 1 5】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. WHO（世界保健機関）によればセルフメディケーションとは、「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てする」こととされている。
- b. 一般用医薬品の使用は、医療機関での治療を受けるほどではない体調の不調や疾病の初期段階、あるいは日常において、生活者が自らの疾病の診断、治療若しくは予防又は生活の質（QOL）の改善・向上を図ることを目的としている。
- c. 一般用医薬品の利用のほか、生活習慣の改善を含めた健康維持・増進全般についてセルフメディケーションという場合もある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	誤	正
4	誤	正	正
5	正	正	誤

【問 1 6】

一般用医薬品の販売時のコミュニケーションに関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 家庭における常備薬として医薬品を購入する者に対しては、実際に使用する際に、改めて添付文書等に目を通すよう促す必要はない。
- b. 登録販売者は、購入者側に情報提供を受けようとする意識が乏しい場合でも必要な情報提供を行えるよう、コミュニケーション技術を身につけるべきである。
- c. 情報提供は必ずしも医薬品の販売に結びつけるのではなく、医療機関の受診を勧めたり（受診勧奨）、医薬品の使用によらない対処を勧めることが適切な場合がある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	正
3	誤	正	正
4	誤	正	誤
5	正	誤	誤

【問 17】

登録販売者が購入者から確認しておきたい基本的なポイントに関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. その医薬品を使用するのは情報提供を受けている当人か、又はその家族等が想定されるか。
- b. その医薬品を使用する人が医療機関で治療を受けていないか。
- c. その医薬品を使用する人が相互作用や飲みあわせで問題を生じるおそれのある他の医薬品や食品を摂取していないか。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	誤	正
4	誤	正	正
5	正	正	誤

【問 18】

副作用被害や薬害に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 医薬品は、人体にとって本来異物であり、治療上の効能・効果とともに何らかの有害な作用（副作用）等が生じることがある。
- b. 医薬品が十分注意して使用された場合、薬害は発生しない。
- c. 医薬品の販売に従事する専門家を含め関係者が、医薬品の安全性の確保に最善の努力を重ねていく必要がある。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	正	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	正	正
5	誤	誤	正

【問 19】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい

- a. サリドマイド訴訟は、妊娠している女性がサリドマイド製剤を使用したことにより、出生児に四肢欠損、耳の障害等の先天異常（サリドマイド胎芽症）が発生したことに對する損害賠償訴訟である。
- b. スモン訴訟は、催眠鎮静剤として販売されていたキノホルム製剤を使用したことにより、亜急性脊髄視神経症に罹患したことに對する損害賠償訴訟である。
- c. HIV 訴訟は、血友病患者が、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）が混入した原料血漿から製造された血液凝固因子製剤の投与を受けたことにより、HIVに感染したことに對する損害賠償訴訟である。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	正	誤	正
4	誤	正	正
5	誤	誤	正

【問 20】

クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. CJDの原因は、ウイルス感染によるものである。
- b. CJD訴訟を契機として、1979年、医薬品副作用被害救済制度が創設された。
- c. CJDは、次第に認知症に類似した症状が現れ、死に至る重篤な神経難病である。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	誤	誤	正
4	誤	正	正
5	正	誤	誤

主な医薬品とその作用

【問 2 1】

かぜ薬に配合される成分とその作用の関係が正しいものの組み合わせを下の 1～5 から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

成 分	作 用
a. ノスカピン -----	鎮咳 ^{がい} 作用
b. リゾチーム塩酸塩（塩化リゾチーム） -----	抗炎症作用
c. プソイドエフェドリン塩酸塩 ----- （塩酸プソイドエフェドリン）	鎮静作用
d. コデインリン酸塩水和物（リン酸コデイン） -----	去痰 ^{たん} 作用

1. (a , b) 2. (a , d) 3. (b , c) 4. (b , d) 5. (c , d)

【問 2 2】

かぜ薬に配合される成分に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. かぜの時に消耗しやすいビタミン又はビタミン様物質を補給することを目的として、アスコルビン酸やリボフラビンが配合されている場合がある。
- b. ケイ酸アルミニウムは、発熱や痛みを和らげることを目的として用いられる。
- c. トラネキサム酸は、凝固した血液を分解されにくくする働きがある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	正	誤	正
4	誤	誤	正
5	誤	正	誤

【問23】

次の記述に該当する解熱鎮痛成分を下の1～5から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

主として中枢性の作用によって解熱・鎮痛をもたらすと考えられており、抗炎症作用は期待できない。その分、他の解熱鎮痛成分のような胃腸障害は比較的少ないとされ、空腹時に服用できる製品もある。

1. グアイフェネシン
2. アスピリン
3. アセトアミノフェン
4. 塩酸ジセチアミン
5. イブプロフェン

【問24】

次のa～cの記述は鎮痛の目的で用いられる漢方処方製剤について述べたものである。該当するものの正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 下肢の痙攣性疼痛（いわゆる「足がつる」症状やこむらがり）、急な腹痛や胃痙攣の痛み等のような、急激に起こる筋肉の痙攣を伴う疼痛に適するとされる。ただし、症状があるときのみでの服用にとどめ、連用を避けることとされている。
- b. 関節痛、神経痛に適するとされるが、のぼせが強く赤ら顔で体力が充実している人では、動悸、のぼせ、ほてり等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。
- c. みぞおちが膨満して手足が冷えやすい人における、頭痛及び頭痛に伴う吐き気、しゃっくりに適するとされる。

	a	b	c
1	芍薬甘草湯	安中散	呉茱萸湯
2	当帰芍薬散	桂枝加朮附湯	呉茱萸湯
3	当帰芍薬散	桂枝加朮附湯	清上防風湯
4	芍薬甘草湯	桂枝加朮附湯	呉茱萸湯
5	芍薬甘草湯	安中散	清上防風湯

【問25】

眠気を促す薬に配合される成分に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. ブロモバレリル尿素（ブロムワレリル尿素）については、胎児障害の可能性があるため、妊婦又は妊娠していると思われる女性は使用を避けることが望ましい。
- b. 抗ヒスタミン成分を主薬とする催眠鎮静薬は、睡眠改善薬として、慢性的に不眠症状がある人を対象としたものである。
- c. ジフェンヒドラミン塩酸塩（塩酸ジフェンヒドラミン）は、催眠鎮静薬以外の医薬品にも配合されていることがあるので、これらの成分を含有する医薬品や、他の催眠鎮静薬が併用されると、効き目が増強されるおそれがある。

	a	b	c
1	誤	正	誤
2	誤	誤	正
3	正	誤	誤
4	正	誤	正
5	正	正	誤

【問26】

眠気防止薬に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. かぜ薬やアレルギー用薬などを使用したことによる眠気を抑えるために、眠気防止薬を使用するのは適切でない。
- b. 成長期にある小児の発育には睡眠が重要であり、眠気防止薬に小児向けの製品はない。
- c. 細菌やウイルスなどに感染したときに生じる眠気は、生体防御の重要な一端を担っている生理的^レ反応であり、そのようなときに眠気防止薬を使用して睡眠を妨げると、病気の治癒^ゆを遅らせるおそれがある。

	a	b	c
1	誤	誤	正
2	正	誤	正
3	正	誤	誤
4	正	正	正
5	誤	正	誤

【問27】

鎮暈薬（乗物酔い防止薬）に関する次のa～cの（ ）に入る字句の正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

※なお、同じアルファベットの欄には同じ字句が入ります。

抗ヒスタミン成分は、（ a ）にある嘔吐中枢への刺激や内耳の（ b ）における自律神経反射を抑える作用を示す。また、抗ヒスタミン成分は（ c ）作用を示すものが多いが、（ c ）作用も乗物酔いによるめまい、吐き気等の防止・緩和に寄与すると考えられている。

	a	b	c
1	延髄 <small>ずい</small>	前庭	抗コリン
2	脊髄 <small>せきずい</small>	蝸牛 <small>かぎゅう</small>	抗コリン
3	脊髄 <small>せきずい</small>	前庭	抗コリン
4	脊髄 <small>せきずい</small>	蝸牛 <small>かぎゅう</small>	抗アドレナリン
5	延髄 <small>ずい</small>	前庭	抗アドレナリン

【問28】

小児鎮静薬に用いられる漢方処方製剤のうち、構成生薬としてカンゾウを含まない製剤を次の1～5から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

1. 桂枝加竜骨牡蛎湯けいし かりゅうこつ ぼれいとう
2. 柴胡加竜骨牡蛎湯さいこ かりゅうこつ ぼれいとう
3. 抑肝散加陳皮半夏よくかんさんか ちん びはん げ
4. 抑肝散よくかんさん
5. 小建中湯しょうけんちゅうとう

【問29】

次の表は、ある鎮咳去痰薬に含まれている成分の一覧である。

この鎮咳去痰薬に含まれている成分とその配合目的に関する次のa～cの関係の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

1日最大量40mL中		
ジメモルファンリン酸塩（リン酸ジメモルファン）		60mg
ブロムヘキシシン塩酸塩（塩酸ブロムヘキシシン）		8mg
d-クロルフェニラミンマレイン酸塩 （d-マレイン酸クロルフェニラミン）		4mg
リゾチーム塩酸塩（塩化リゾチーム）		40mg（力価）
無水カフェイン		80mg

- | | |
|----|------|
| 成分 | 配合目的 |
|----|------|
- a. ジメモルファンリン酸塩 ----- 延髄の咳嗽中枢に作用し、咳を抑える。
（リン酸ジメモルファン）
- b. ブロムヘキシシン塩酸塩 ----- 口腔内及び咽頭部を局所的に殺菌消毒する。
（塩酸ブロムヘキシシン）
- c. 無水カフェイン ----- 気道粘膜からの分泌を促進し、痰の切れを良くする。

	a	b	c
1	誤	誤	正
2	正	誤	正
3	正	誤	誤
4	正	正	誤
5	誤	正	誤

【問30】

鎮咳去痰薬に配合される成分に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物（臭化水素酸デキストロメトルファン）は、交感神経系を刺激して気管支を拡張させる作用を示し、呼吸を楽にして咳や喘息の症状を鎮めることを目的として用いられる。
- b. 去痰成分は、気道粘膜からの分泌を促進する作用を示すものと、痰の中の粘性蛋白質に作用してその粘りけを減少させるものの2つに大別される。
- c. 自律神経系を介さずに気管支の平滑筋に直接作用して弛緩させ、気管支を拡張させる成分として、塩酸メトキシフェナミンがある。

	a	b	c
1	誤	誤	正
2	正	誤	正
3	正	誤	誤
4	正	正	誤
5	誤	正	誤

【問31】

口腔咽喉薬・うがい薬（含嗽薬）及びそれらに配合される成分に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 妊娠中に摂取されたヨウ素の一部は胎盤関門を通過して胎児に移行するため、長期間に渡って大量に使用された場合には、胎児にヨウ素の過剰摂取による甲状腺機能障害を生じるおそれがある。
- b. グルコン酸クロルヘキシジンが配合された含嗽薬は刺激が少ないので、口腔内に傷やひどいただれのある人にも、安心して使用することができる。
- c. 含嗽薬の使用後すぐに食事を摂ると、殺菌消毒効果が薄れやすい。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	正	正	正
3	正	誤	正
4	誤	誤	正
5	誤	正	誤

【問32】

次のa～cの記述は胃の薬に配合される成分について述べたものである。該当するものの正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. ミカン科キハダの樹皮で、苦味による健胃作用を期待して用いられる。
- b. クスノキ科のシナニッケイ又はその他同属植物の樹皮及び周皮の一部を除いたものを用いた生薬で、香りによる健胃作用を期待して用いられる。
- c. 胆汁の分泌を促す作用（利胆作用）があるとされ、消化を助ける効果を期待して用いられる。

	a	b	c
1	ケイヒ	ゲンチアナ	ウルソデオキシコール酸
2	ケイヒ	オウバク	ウルソデオキシコール酸
3	オウバク	ケイヒ	ウルソデオキシコール酸
4	オウバク	ゲンチアナ	スクラルファート水和物 (スクラルファート)
5	ゲンチアナ	ケイヒ	スクラルファート水和物 (スクラルファート)

【問 3 3】

ビサコジルに関する次の a～c の () に入る字句の正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

※なお、同じアルファベットの欄には同じ字句が入ります。

ビサコジルは、特に (a) のうち (b) や直腸の粘膜を刺激して、排便を促すと考えられている。また、(b) での水分の吸収を抑えて、糞便のかさを増大させる働きもあるとされる。腸溶製剤の場合、胃内でビサコジルが溶け出すおそれがあるため、服用前後1時間以内は制酸成分を含む胃腸薬の服用や (c) の摂取を避けることとされている。

	a	b	c
1	小腸	空腸	牛乳
2	小腸	回腸	レモン汁
3	大腸	回腸	牛乳
4	大腸	結腸	レモン汁
5	大腸	結腸	牛乳

【問 3 4】

腸の薬に用いられる次の a～e の成分のうち、止瀉成分として配合されるものの正しい組み合わせを下の 1～5 から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. ピコスルファートナトリウム水和物 (ピコスルファートナトリウム)
- b. 次硝酸ビスマス
- c. タンニン酸アルブミン
- d. ジオクチルソジウムスルホサクシネート (DSS)
- e. ベルベリン塩化物 (塩化ベルベリン)

- 1. (a , b , c) 2. (a , b , d) 3. (a , d , e)
- 4. (b , c , e) 5. (c , d , e)

【問35】

胃腸鎮痛鎮痙薬及びそれに配合される成分に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 抗コリン作用を有する成分を含有する医薬品どうしが併用された場合、抗コリン作用が増強され、目のかすみや異常な眩しさ、眠気、口渇、下痢等の副作用が現れやすくなる。
- b. ブチルスコポラミン臭化物（臭化ブチルスコポラミン）は、自律神経系を介した作用ではなく、消化管の平滑筋に直接働いて胃腸の痙攣を鎮める作用を示すとされ、胃液分泌を抑える作用は見出されない。
- c. 胃腸鎮痛鎮痙薬に配合されている成分は、胃腸以外に対する作用も示すものがほとんどであり、複数の胃腸鎮痛鎮痙薬が併用された場合、泌尿器系や循環器系、精神神経系などに対する作用（副作用）が現れやすくなる。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	正	正	誤
3	正	誤	正
4	誤	正	正
5	誤	誤	正

【問36】

浣腸薬に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 薬液を注入した後すぐに排便を試みると、薬液のみが排出されて効果が十分得られないことから、便意が強まるまでしばらく我慢する。
- b. グリセリンが配合された浣腸薬が、肛門や直腸の粘膜に損傷があり出血しているときに使用されると、赤血球の破壊（溶血）を引き起こすおそれがある。
- c. 炭酸水素ナトリウムは、浸透圧の差によって腸管壁から水分を取り込んで直腸粘膜を刺激し、排便を促す効果を期待して用いられる。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	正	正	誤
3	誤	正	誤
4	誤	正	正
5	誤	誤	正

【問37】

強心薬に関する次の記述に該当する成分を下の1～5から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

ヒキガエル科のシナヒキガエル又はヘリグロヒキガエルの毒腺^{せん}の分泌物を集めたもので、微量で強い強心作用を示す。皮膚や粘膜に触れると局所麻酔作用を示し、この成分が配合された丸薬、錠剤等の内服固形製剤は、口中で噛み砕くと舌等が麻痺^ひすることがあるため、噛まずに服用することとされている。

1. センソ
2. ジャコウ
3. ゴオウ
4. ロクジョウ
5. リュウノウ

【問38】

高コレステロール改善薬に用いられる成分に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 大豆油不飽^{けん}化物（ソイステロール）、ポリエノスファチジルコリン（大豆から抽出・精製したレシチンの一種）等はいずれも脂溶性物質であるため、悪心^{おしん}（吐き気）、胃部不快感、胸やけ、下痢等の消化器系の副作用が現れることがある。
- b. ビタミンE（酢酸トコフェロール）は、コレステロールから過酸化脂質の生成を抑えるほか、末梢血管における血行を促進する作用があるとされる。
- c. リボフラビンの摂取によって尿が黄色くなった場合は、使用を中止し、医療機関を受診するよう促すべきである。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	正	正	誤
3	誤	正	誤
4	誤	正	正
5	誤	誤	正

【問39】

次のa～cの（ ）に入る字句の正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

※なお、同じアルファベットの欄には同じ字句が入ります。

鉄分は、（ a ）が酸素を運搬する上で重要な（ b ）の産生に不可欠なミネラルである。鉄分の摂取不足を生じても、初期には貯蔵鉄（（ c ）などに蓄えられている鉄）や血清鉄（（ b ）を産生するために、貯蔵鉄が（ a ）へと運ばれている状態）が減少するのみで（ b ）量自体は変化せず、ただちに貧血の症状は現れない。しかし、持続的に鉄が欠乏すると、（ b ）が減少して貧血症状が現れる。

	a	b	c
1	血小板	ビリルビン	肝臓
2	血小板	ヘモグロビン	脾臓 ^ひ
3	赤血球	ヘモグロビン	肝臓
4	赤血球	ヘモグロビン	脾臓 ^ひ
5	赤血球	ビリルビン	脾臓 ^ひ

【問40】

次のa～dの記述について、正しいものの組み合わせを下の1～5から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. ユビデカレノンは、軽度な心疾患により日常生活の身体活動を少し越えたときに起こる動悸^き、息切れ、むくみの症状に用いられる。
- b. ルチンは別名コエンザイムQ10とも呼ばれるビタミン様物質の一種で、高血圧等における毛細血管の補強、強化の効果を期待して用いられる。
- c. ヘプロニカートは、末梢の血液循環を改善する作用を示す。
- d. 七物降下湯^{しちもつこうかとう}は、比較的体力があり、のぼせ気味で、顔面紅潮^じし、精神不安で、便秘の傾向のある人における、高血圧に伴う諸症状、鼻血、痔出血、便秘、更年期障害、血の道症に適するとされる。

1. (a , b) 2. (a , c) 3. (b , c) 4. (b , d) 5. (c , d)

【問 4 1】

外用痔疾用薬に用いられる成分とその作用に関する次の a ~ c の関係の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

成分	作用
a. エフェドリン塩酸塩（塩酸エフェドリン）-----	殺菌消毒作用
b. ヒドロコルチゾン酢酸エステル（酢酸ヒドロコルチゾン）-----	抗炎症作用
c. アラントイン-----	止血作用

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	正
3	正	誤	誤
4	誤	誤	正
5	誤	正	誤

【問 4 2】

泌尿器用薬に関する次の a ~ c の（ ）に入る字句の正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

竜胆瀉肝湯は、（ a ）、下腹部の筋肉が緊張する傾向がある人における、排尿痛、残尿感、尿の濁り、こしけ（おりもの）の症状に適するとされるが、胃腸が弱く下痢しやすい人に（ b ）とされる。構成生薬として（ c ）を含む。

	a	b	c
1	比較的体力があり	不向き	ブシ
2	比較的体力があり	不向き	カンゾウ
3	比較的体力があり	適する	ブシ
4	疲れやすく	不向き	カンゾウ
5	疲れやすく	適する	ブシ

【問 4 3】

婦人薬及び婦人薬に配合される成分に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. エストラジオールは、長期連用により血栓症を生じるおそれがある。
- b. センキュウはセリ科のセンキュウの根茎であり、血行を改善し、血色不良や冷えの症状を緩和する。
- c. 五積散ごしゃくさんは、慢性に経過し、症状の激しくない胃腸炎、腰痛、神経痛、関節痛、月経痛、頭痛、冷え症、更年期障害、感冒に適するとされるが、体の虚弱な人、胃腸の弱い人、発汗傾向の著しい人では、不向きとされる。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	正
3	正	誤	誤
4	誤	誤	正
5	誤	正	誤

【問 4 4】

アレルギー用薬に配合される成分に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 鼻炎用内服薬において、アドレナリン作動成分は主に、交感神経系を刺激して鼻粘膜の血管を拡張させることによって、鼻粘膜の充血や腫れはを和らげる目的で配合されている。
- b. 赤血球から遊離したヒスタミンが受容体と反応するのを妨げることにより、ヒスタミンの働きを抑える作用を示す成分（抗ヒスタミン成分）として、メキタジン等がある。
- c. 鼻炎用内服薬では、鼻腔内の粘液分泌腺くうからの粘液の分泌を抑えるとともに、鼻腔内の刺激を伝達する副交感神経系の働きを抑えることによって、鼻汁分泌やくしゃみを抑えることを目的として、ベラドンナが配合されている場合がある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	正
4	誤	誤	正
5	誤	正	誤

【問 4 5】

アレルギー用薬に配合される成分とその作用の関係が正しいものの組み合わせを下の 1～5 から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

成 分	作 用
a. ジフェンヒドラミン塩酸塩 ----- (塩酸ジフェンヒドラミン)	抗ヒスタミン作用
b. グリチルリチン酸 -----	抗コリン作用
c. ヨウ化イソプロパミド -----	抗炎症作用
d. メチルエフェドリン塩酸塩 ----- (塩酸メチルエフェドリン)	アドレナリン作動作用

1. (a , b) 2. (a , c) 3. (a , d) 4. (b , d) 5. (c , d)

【問 4 6】

次の表は、ある鼻炎用点鼻薬に含まれている成分の一覧である。

この鼻炎用点鼻薬に含まれている成分とその配合目的・作用の関係が正しいものの組み合わせを下の 1～5 から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

1mL中	
ナファゾリン塩酸塩 (塩酸ナファゾリン)	0.5mg
クロルフェニラミンマレイン酸塩 (マレイン酸クロルフェニラミン)	5mg
塩酸リドカイン (無水物として)	3mg
ベンゼトニウム塩化物 (塩化ベンゼトニウム)	0.2mg

成分	配合目的・作用
a. ナファゾリン塩酸塩 (塩酸ナファゾリン) ---	くしゃみや鼻汁等の症状を緩和する
b. クロルフェニラミンマレイン酸塩 ----- (マレイン酸クロルフェニラミン)	鼻粘膜の血管を拡張させる
c. 塩酸リドカイン -----	鼻粘膜の過敏性や痛みや痒み ^{かゆ} を抑える
d. ベンゼトニウム塩化物 (塩化ベンゼトニウム) --	細菌による二次感染を防止する

1. (a , b) 2. (a , c) 3. (a , d) 4. (b , c) 5. (c , d)

【問 4 7】

眼科用薬及び眼科用薬に配合される成分に関する次の a ~ c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 点眼の際には、容器の先端を眼瞼（まぶた）につけて、薬液が確実に目の中に入るように注意しながら、1 滴ずつ正確に点眼することとされている、
- b. エフェドリン塩酸塩（塩酸エフェドリン）は、緑内障と診断された人では、眼圧の上昇をまねき、緑内障を悪化させたり、その治療を妨げるおそれがある。
- c. ネオスチグミンメチル硫酸塩（メチル硫酸ネオスチグミン）は、アセチルコリンの働きを抑えることで、目の調節機能を改善する効果を目的として配合される。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	誤
3	誤	正	正
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

【問 4 8】

眼科用薬に配合される成分に関する次の a ~ c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. コンドロイチン硫酸ナトリウムは、自律神経系の伝達物質の産生に重要なビタミン成分であり、目の調節機能の回復を促す効果がある。
- b. 結膜や角膜の乾燥を防ぐことを目的として、ビタミンB₁₂（シアノコバラミン）が用いられる。
- c. 細菌感染（ブドウ球菌や連鎖球菌）による結膜炎やものもらい（麦粒腫）、眼瞼炎などの化膿性の症状の改善を目的として、サルファ剤が用いられる。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	正
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

【問 4 9】

皮膚に用いる薬に配合される成分に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. ステロイド性抗炎症成分は、広範囲に生じた皮膚症状や、慢性の湿疹・皮膚炎の緩和を目的とするものであり、体の一部分に生じた湿疹・皮膚炎等の一時的な皮膚症状には使用しない。
- b. ステロイド性抗炎症成分は、末梢組織の免疫機能を低下させる作用を示すので、水痘（水疱瘡）、みずむし、たむし等又は化膿している患部の症状を悪化させる恐れがあり、使用を避ける必要がある。
- c. 非ステロイド性抗炎症成分であるケトプロフェンは、まれに重篤な副作用として、アナフィラキシー様症状、接触性皮膚炎、光線過敏症を生じることがある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	正	正
5	誤	誤	正

【問 5 0】

皮膚に用いる薬に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. イオウは、角質軟化作用を示し、併せて抗菌、抗真菌作用も期待され、にきび用薬に配合されている場合がある。
- b. 塩化カルプロニウムは、末梢組織（適用局所）においてアセチルコリンに類似した作用（コリン作用）を示し、頭皮の血管を拡張、毛根への血行を促すことによる発毛効果を期待して用いられる。
- c. 硝酸オキシコナゾールは、皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げたり、細胞膜の透過性を変化させることにより、その増殖を抑える。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

【問5 1】

歯槽膿漏そうのうろう薬に配合される成分に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 炎症を起こした歯周組織からの出血を抑えることを目的として、塩化セチルピリジニウム、グルコン酸クロルヘキシジンが配合されている場合がある。
- b. 歯周組織の炎症を和らげることを目的として、グリチルリチン酸二カリウム、グリチルレチン酸が配合されている場合がある。
- c. 歯肉溝での細菌の繁殖を抑える作用を期待して、カルバゾクロムが配合されている場合がある。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	誤
3	誤	正	正
4	誤	誤	正
5	誤	正	誤

【問5 2】

口内炎及び口内炎用薬に配合される成分に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 口腔粘膜くわうの組織修復を促す作用を期待して、アズレンスルホン酸ナトリウム（水溶性アズレン）が配合されている場合もある。
- b. 口内炎や舌炎は、通常であれば1～2週間で自然寛解するが、一度に複数箇所に発生して食事に著しい支障を来すほどの状態であれば、医療機関を受診することが望ましい。
- c. 口内炎は栄養摂取の偏り、ストレスや睡眠不足などが要因であり、ウイルスによる感染や医薬品の副作用によって生じることはない。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

【問53】

禁煙補助剤に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 咀嚼剤^{そしゃく}は禁煙達成を早めるために、1度に2個以上使用することが望ましい。
- b. 喫煙を完全に止めたうえ使用することとされている。
- c. 咀嚼剤^{そしゃく}は噛むことにより、口腔内^{くわう}でニコチンが放出され、そのニコチンが口腔粘膜^{くわう}から吸収されて循環血液中に移行する。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	正
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

【問54】

ビタミン成分に関する次の a～d の記述について、正しいものの組み合わせを下の 1～5 から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. ビタミンEは、目の乾燥感、夜盲症（とり目）の症状を緩和する作用がある。
- b. ビタミンDは、腸管でのカルシウム吸収及び尿細管でのカルシウム再吸収を促して、骨の形成を助ける栄養素である。
- c. ビタミンCは、炭水化物からのエネルギー産生に不可欠な栄養素で、神経の正常な働きを維持する作用がある。
- d. ビタミンB₂は、脂質の代謝に関与し、皮膚や粘膜の機能を正常に保つために重要な栄養素である。

1. (a , b) 2. (a , d) 3. (b , c) 4. (b , d) 5. (c , d)

【問55】

漢方処方製剤に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 患者の証（体質及び症状）に基づく考え方とは、体質を虚証と実証とに分類し、それに応じて処方を選択する考え方である。
- b. 陰陽五行説は、人体の臓器を五臓六腑に分け、それぞれの臓器が相互に作用し合って生体のバランスを取っている、という考え方に基づいて処方を選択する考え方である。
- c. 漢方薬は一般に作用が穏やかで、副作用が少なく、重篤な副作用は起きない。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	誤	正
5	誤	正	誤

【問56】

次の記述に該当する生薬を下の 1～5 から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

マメ科のクズの根を用いた生薬で、解熱、鎮^{けい}痙等の作用を期待して用いられる。

- 1. ボウフウ
- 2. ブクリョウ
- 3. カッコン
- 4. ブシ
- 5. レンギョウ

【問 5 7】

消毒薬に関する次の a ~ c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. エタノールは、アルコール分が微生物の蛋白質を変性させ、結核菌を含む一般細菌類、真菌類、ウイルスに対する殺菌消毒作用を示す。
- b. クレゾール石鹼液は、結核菌を含む一般細菌類、真菌類、ウイルスに対して比較的広い殺菌消毒作用を示す。
- c. 次亜塩素酸ナトリウムやサラシ粉などの塩素系殺菌消毒成分は、有機物の影響を受けやすいので、殺菌消毒の対象物を洗浄した後に使用した方が効果的である。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	正
3	正	誤	誤
4	誤	正	正
5	誤	誤	正

【問 5 8】

殺虫剤に配合される成分とその分類の関係が誤っているものを次の 1 ~ 5 から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

成 分	分 類
1. ジクロルボス -----	有機リン系
2. メトキサジアゾン -----	オキサジアゾール系
3. プロポクスル -----	カーバメイト系
4. オルトジクロロベンゼン -----	有機塩素系
5. フェニトロチオン -----	ピレスロイド系

【問59】

尿糖・尿蛋白検査薬に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 採尿の仕方としては、出始めの尿を採取することが望ましい。
- b. 尿蛋白の場合、原則として早朝尿（起床直後の尿）を検体とする。
- c. 通常、尿は弱酸性であるが、食事その他の影響で中性～弱アルカリ性に傾くと、正確な検査結果が得られなくなることがある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	正
3	正	正	誤
4	正	誤	誤
5	誤	誤	正

【問60】

妊娠検査薬に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 一般的な妊娠検査薬は、月経予定日を過ぎて概ね1週目以降の検査が推奨されている。
- b. 尿中のヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（hCG）の検出反応は、hCGと特異的に反応する抗体や酵素を用いた反応であるため、温度の影響を受けない。
- c. 子宮外妊娠や胎状奇胎などを生じている場合には、妊娠しているにもかかわらず検査結果が陰性となることがある。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	正
3	誤	正	正
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正